UENO Toshihiko; uenot_gosudarstvo@yahoo.co.jp; http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html

6. 新思考外交とソ連崩壊

1.「新思考 но́вое мышле́ние」外交の始まり

1985 年 3 月 11 日	ゴルバチョフ（Михаи́л Серге́евич Горбачёв）ソ連共産党中央委員会書記長に就任
7 月 2 日	グロムィコ外相解任（政治局員は 1988.9.30 まで）、後任にシェヴァルナッゼ（Эдуа́рд Амвро́сиевич Шевардна́дзе）グルジア共産党第 1 書記、就任
7 月 29 日	8 月 6 日から 1986 年 1 月 1 日までの核実験の一方的停止を宣言（その後さらに延長）
10 月 2-5 日	ゴルバチョフ、訪仏。戦略核 5 割削減、中距離核戦力（INF: Intermediate-range nuclear forces）削減交渉を提案（3 日）
11 月 19 日	ジュネーヴでゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談開始（6 年半ぶり）
1986 年 4 月 28 日	チェルノブィリ原子力発電所事故

ゴルバチョフ

シェヴァルナッゼ

レイキャビク首脳会談

2. 米ソ軍縮交渉の展開

1986 年 10 月 11-12 日	レイキャビクでゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談 今後 10 年以内の弾道ミサイル全廃提案に、レーガン大統領が、いったんは賛成するも、他の西側諸国指導者との協議なしに西側の安全保障全体にかかわる提案に同意し得ずと、あわてて保留にする（当時、マスコミには「米国の戦略防衛構想（SDI: Strategic Defense Initiative）で物別れ」と説明された）→西側におけるレーガン大統領への信頼の低化
1987 年 3 月 28-30 日	サッチャー英首相、訪ソ
4 月 9 日	ゴルバチョフ、チェコスロヴァキア訪問
5 月 28 日	西独 19 歳青年（ルスト君）、ヘルシンキからセスナ機で赤の広場に侵入着陸→ソコロフ国防相辞任し、後任にヤーゾフ人事担当国防次官・前極東軍管区司令官が就任。
7 月 11-14 日	ゴルバチョフ、ポーランド訪問、欧州通常兵力削減で全欧首脳会議開催を提案、またブレジネフ・ドクトリン（制限主権論）見直しを提案→東欧自由化へ（1989 年から）
12 月 8-10 日	ゴルバチョフ訪米。8 日のワシントンのゴルバチョフ・レーガン（米ソ首脳）会談で中距離核戦力（INF）全廃条約調印（第 2 次世界大戦後初の軍縮条約）
1991 年 7 月 30-31 日	モスクワで米ソ首脳（ゴルバチョフ・ブッシュ）会談。米、対ソ支援策発表（30 日）、START 条約調印（31 日）

3. アジア太平洋政策の新展開

1986 年 7 月 28 日	ゴルバチョフ、ヴラジヴォストークで演説し、アジア太平洋政策を発表（ヴラジヴォストーク宣言）→対中政策の変化（国境問題の改善）のほか、①アフガニスタンからの 6 個連隊撤退、②モンゴル駐留ソ連軍撤退検討、③全アジア安保会議の広島開催提案、④日ソ首脳相互訪問提案
1987 年 2 月 9 日	中ソ国境交渉 9 年ぶりに再開（モスクワ）
9 月 16 日	ゴルバチョフ、クラスノヤルスクで演説し、アジア太平洋地域での安全保障を提案
1988 年 5 月	アフガニスタンからのソ連軍撤退開始。
夏	ソウル・オリンピック以降、韓ソ国交樹立の動き。
1989 年 5 月 15 日	ゴルバチョフ訪中（ソ連指導者としては 30 年ぶり）、中ソ関係正常化
6 月 4 日	天安門事件→欧米による対中批判（人権問題）の結果、中国は国際的影響力を失う ↓ ゴルバチョフの構想（中ソ関係好転によりアジアでのソ連の比重の増大）の挫折
1990 年 6 月 4 日	サンフランシスコでゴルバチョフ・盧泰愚（ノ・テウ）（韓ソ首脳）会談
9 月 30 日	韓ソ国交樹立
1991 年 4 月 16-19 日	ゴルバチョフ大統領、ソ連最高指導者として初来日し、日ソ首脳（ゴルバチョフ・海部）会談
4 月 19-20 日	ゴルバチョフ大統領、ソ連最高指導者として初訪韓し、済州島で韓ソ首脳（ゴルバチョフ・盧泰愚）会談
5 月 15-17 日	江沢民・中国共産党総書記訪ソ、中ソ首脳会談、東部国境線画定協定に正式調印（16 日）

4. ゴルバチョフ「新思考」外交の動機

4.1. 「新思考」外交の展開により何らかの具体的利益（国益）があるという考え
①国内経済の困窮。
②国内での権力基盤固めのため、外交面で成果を上げる必要があった。
③既存の国際関係を大幅に変え、西側の結束を崩し、ソ連に都合のよい環境を創造するため。国際連合を重視し、資金のかかる第三世界からの撤退をすすめれば西側の主要国とならぶ地位につける。

4.2. 理想主義の追求（最高指導者となった以上、個人的にはもはやこれ以上得られる利益はない）
①階級的利益から全人類的利益への追求へ
②絶対平和主義

5. 東欧の変動（自由化の嵐の 1989〜90 年）

1988 年 8 月 31 日	ポーランドのワウェンサ「連帯」労組議長、キシチャク内相と会談、内相提案の円卓会議参加を決め、国内各地のスト中止を指令
12 月 7 日	ゴルバチョフ、国連総会で演説、自由と人権の擁護を強調→東欧諸国民による政府への反抗拡大
1989 年 2 月 12 日	ハンガリーで複数政党制承認
3 月 23 日	コソヴォでアルバニア系住民と警官隊が衝突
4 月 6 日	ポーランド、円卓会議閉幕、2 院制を採用し、「連帯」の政権参加が承認される
6 月 4 日	ポーランド、上下両院選挙で、「連帯」が圧勝
6 月 12 日	ゴルバチョフ、西独訪問、「欧州共通の家」声明
6 月 24 日	ハンガリー社会主義労働者党議長に改革派就任
7 月 19 日	ポーランド、初代大統領にヤルゼルスキ将軍を選出
8 月 19 日	ポーランドで、非党員のマゾビエツキ首相就任

8 月 23 日　在オーストリア（ウィーン）西独大使館に、東独→ハンガリー→オーストラリア経由で西独移住を希望して殺到する東独市民 8 月初めからこの日までに 3300 人
9 月 10 日　ハンガリー政府、西独移住を希望してハンガリーに殺到する東独国民の出国を 11 日から認めるとの声明発表
10 月 1 日　東独政府の出国許可を受け在チェコスロヴァキア（プラハ）および在ポーランド（ワルシャワ）西独大使館に殺到していた計 6000 人の東独国民が列車で西独入り
10 月 6～9 日　ハンガリー社会主義労働者党大会、党名を「社会党」に変更し、一党独裁放棄、市場経済移行を決定
10 月 9 日　東独ライプチヒで民主化要求デモ
10 月 10 日　ハンガリー政府、国内滞在中の東独国民の西独出国を許可
10 月 18 日　東独社会主義統一党書記長で保守派のホネッカー辞任、後任にクレンツ政治局員就任
11 月 1 日　クレンツ、モスクワを訪問。ゴルバチョフ・クレンツ会談、改革政策で一致
11 月 9 日　東独政府、国民の出入国自由化、東ベルリン市民の西ベルリンへの出入りを自由化（ベルリンの壁、崩壊）
11 月 14 日　チェコスロヴァキア出入国自由化
11 月 28 日　コール西独首相、議会で東西ドイツ統一 10 項目提案
12 月 1 日　ゴルバチョフ、1968 年のチェコスロヴァキア介入を誤りと認める
12 月 22 日　ルーマニア、チェウシェスク政権崩壊、チェウシェスク大統領夫妻処刑（25 日）
1990 年 3 月 10 日　ハンガリー駐留ソ連軍完全撤退協定調印
3 月 18 日　東独自由選挙で早期統一派勝利
3 月 25 日　ハンガリー自由選挙で社会党（旧支配党）惨敗
6 月 7 日　チェコスロヴァキアで自由選挙、改革派圧勝
10 月 3 日　東西ドイツ統一
12 月 9 日　ポーランド大統領選挙、ワウェンサ「連帯」労組議長圧勝
12 月 11 日　アルバニア労働党、一党独裁放棄、複数政党制導入を決定

6. ソ連崩壊への道

民族問題の激化
共和国の分離化傾向強まる
ソ連邦共産党の求心力低下
ゴルバチョフの軍縮・東欧政策・新連邦条約策定に保守派の不満高まる→シェワルナゼ辞任へ
↓
クーデター派の台頭（正確には保守派だけがゴルバチョフの周りに残る）

1989 年 3 月 26 日　ソ連人民代議員選挙（初の複数候補選挙）
4 月 9 日　グルジア共和国首都トビリシで独立要求デモ、警官隊と衝突
6 月 16 日　カザフスタン共和国ノーヴィ・ウゼーニ市で民族暴動
7 月 10 日　西シベリアのクズバス炭田でスト
8 月 8 日　エストニア共和国最高会議、非エストニア系住民の選挙権を制限する選挙法採択
12 月 20 日　リトアニア共産党大会、ソ連邦共産党からの分離独立を決定
1990 年 1 月 15 日　アゼルバイジャン共和国ナゴルノカラバフ自治州とアルメニア共和国の一部に非常事態導入
1 月 20 日　ソ連軍、アゼルバイジャン共和国首都バクーに侵攻。アゼルバイジャン共和国ナヒチェワン自治共和国最高会議、ソ連からの分離独立を決定
3 月 11 日　リトワニア共和国最高会議、独立宣言採択
3 月 12 日　ソ連人民代議員大会、複数政党制導入決定、ゴルバチョフを大統領に選出
3 月 30 日　エストニア共和国最高会議、独立宣言採択
5 月 4 日　ラトヴィア共和国最高会議、独立宣言採択
5 月 29 日　エリツィン、ロシア共和国最高会議議長に選出
6 月 12 日　ロシア共和国、共和国の憲法・法律が連邦の憲法・法律よりも優先されるとする内容を

含む主権宣言を採択

7 月 2-14 日　ソ連邦共産党第 28 回大会、議会政党への脱皮、中途半端に。ヤコヴレフ、エリツィンら改革派は離党

11 月 14 日　グルジア共和国最高会議議長に独立派のガムサフルジア就任

12 月 20 日　シェヴァルナッゼ外相、辞任

1991 年 1 月 13 日　ビリニュス事件

ソ連軍がリトアニア共和国首都ビリニュス市民のデモ隊と衝突、放送局を攻撃・占拠、市民 14 人が死亡、140 人以上が負傷

1 月 20 日　リガ事件

ソ連内務省軍特殊部隊がラトヴィア共和国内務省を銃撃、共和国側死者 5 人、負傷者 10 人

2 月 18 日　トビリシ事件

グルジア共和国首都トビリシ郊外のグルジア民族主義者の拠点をソ連軍が襲撃

7 月 17 日　ロンドン・サミット、対ソ経済支援で合意

8 月 19-21 日　モスクワで、ヤナーエフ副大統領・パヴロフ首相・クリュチコフ国家保安委員会議長・ヤーゾフ国防相・プーゴ内相らによる反ゴルバチョフ・クーデター

9 月 6 日　ソ連国家評議会（クーデター後のソ連最高機関、各連邦構成共和国首長により構成）、リトアニア、ラトヴィア、エストニアの独立承認

9 月 17 日　第 46 回国連総会、北朝鮮、韓国、バルト 3 国などの国連加盟承認

9 月 25 日　ガムサフルディア・グルジア大統領、非常事態宣言、内戦へ

10 月 5 日　ソ連、IMF 準加盟

10 月 12 日　バンコク・サミット（拡大 G7=G7+ソ連）、対ソ支援具体策で合意

11 月 19-21 日　モスクワで拡大 G7D=先進 7 ヶ国+ソ連・共和国蔵相代理会議、10 億ドルつなぎ融資を含む対ソ支援策で合意

12 月 8 日　ベロヴェーシ（ベラルーシ）でロシア・ウクライナ・ベラルーシ 3 国首脳、CIS 創設宣言（ブレスト宣言・ミンスク宣言などと言われたがロシアではベロヴェーシ協定）

12 月 21 日　アルマ・アタ（カザフスタン、現アルマトゥイ）で旧ソ連 11 ヶ国首脳、CIS 創設宣言

バルト 3 国は不参加。グルジアは内戦終了後に CIS に参加、旧ソ連 13 ヵ国となる

12 月 25 日　ゴルバチョフ大統領辞任 TV 演説、ソ連邦消滅